

令和6年度 岡本小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1)基本目標

人間尊重の精神に基づき、一人一人の特性や能力を生かし、他者と協働できる、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。

(2)具体目標

自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成

○かしこく(進んで学ぶ子) ○やさしく(思いやりのある子) ○たくましく(元気でがんばる子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

(1)一人一人の児童をかけがえのない存在として大切にする。

(2)児童の安心と安全を最優先する。

(3)児童一人一人の良さや可能性を認め励まし、これからの時代をたくましく生き抜く力を育む。

(4)研修に励むとともに、互いに学び合い、専門性と人間性を高める。

(5)保護者や地域の方々と進んでコミュニケーションを図り連携を深める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1)児童一人一人の個性・特性・教育的ニーズの理解に努めるとともに、その特性等応じた指導・支援について全職員による組織的な対応に努める。

(2)魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりに努めるとともに、児童の教育活動や学校施設における危機管理を徹底する。

(3)特色ある教育活動と認め励ます教育を推進することを通して、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成に努める。

(4)学年やブロックを活用したOJTを充実するなど教職員の資質・能力の向上に努めるとともに、業務の効率化や勤務時間の適正化を図るなど働き方改革を推進する。

(5)魅力ある学校づくり地域協議会との連携や小中一貫教育・地域学校園の取組の推進に努めるとともに、家庭や地域とのつながりを深めながら教育活動を展開する。

[河内地域学校園教育ビジョン]

すこやか河内 ～小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します～

4 教育課程編成の方針

社会の変化やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応するため、生涯にわたって成長し続ける基盤となる知・徳・体の調和のとれた力を、児童の発達段階や特性、地域の教育環境、保護者や地域の願いなどを踏まえつつ、教科等横断的な視点で各教科等との関連を図りながら育成する。

<留意点>

- ・ 縦割り班活動や異学年交流会などの児童会活動や学級活動の時間を確保し、児童の主体性を育む取組を更に充実させるため、週に2日「岡小タイム(ロング昼休み)」が実施できる日課とする。
- ・ GIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台端末の活用しながら、デジタル・シティズンシップ教育を推進し、情報活用能力の定着を図るための学習活動を計画的に実施する。
- ・ 「主体的・対話的な深い学び」に向けた授業実践並びに、縦割り班活動や体験活動を通して、認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を構築するとともに、心のたくましさを涵養する。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会の意見や、学校マネジメントシステムアンケートの結果を生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
教職員の資質・能力の向上と働き方改革の推進
・学年やブロックを活用したOJTの充実
・業務の効率化と勤務時間の適正化
・異年齢集団活動や地域資源の活用などの特色ある教育活動の推進
- (2) 学習指導
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
○「宇都宮モデル」を活用した学び合う授業の創出
・情報モラル/デジタル・シティズンシップ教育を踏まえた、1人1台端末などのデジタル機器の効果的な活用
・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用した将来の夢や目標をもたせるための取組の推進
- (3) 児童生徒指導
認め励ます教育とたくましさを涵養する教育の充実
○家庭や地域と連携した適切な言葉遣いと挨拶の励行
・いじめや不登校を生まない指導・支援の充実
・不登校児童への個性・状況・教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
体力の向上と危険予知・回避能力の育成
○各種検定の実施や外遊びの奨励を通じた運動機会の創出
・保健教育に係る関係機関との連携の推進
・学校栄養士と学級担任等の連携の推進
・交通安全教室や地震・火災などを想定した避難訓練の実施

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」→児童肯定的回答 80%以上	①協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ②様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ③理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 92.5%で目標値を大きく上回った。 ①学校課題の解決に向けて協働体制で取り組んだ。授業の流れを共通理解し、めあてや振り返りの時間を取った。 ②教師の見取りや自己評価、ノートの確認、小テストなどから形成的評価を行い、一人一人の定着度の把握に努めた。また、学習の成果に対して賞賛したり、児童の実態に応じた課題を与えたりするなどの支援を行った。 ③話型やモデルとなる表現を提示し、形態を工夫しながら話し合い活動を設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導した。 【次年度の方針】 ・協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ・様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ・理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。

1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定的回答 90%以上	①考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、学年学級を越えて人との関わりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ②学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.2%で、目標値を上回った。 ①考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、各活動において一人一人が自らの成長を振り返ることができるようにした。 ②縦割り班での共遊や清掃活動を中心に異年齢交流に取り組んだ。また、異学年によるランチルーム会食を行った。 ③児童指導情報交換会などを通して、学校全体で児童の様子について共通理解を図り、教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童に深く関わり、機会をとらえて指導することができた。 ④学級図書の実践や読み聞かせボランティアの活用など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。 【次年度の方針】 ○考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、学年学級を越えて人との関わりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	○学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIDリルなどの教育機器を活用して児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。 （「児童会活動」「きらきらさん」「宮っ子心の教育表彰」等）	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 91.5%で目標値を大きく上回った。 ①児童会活動を中心とした日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めることにより、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」の活用や各学級独自の取り組みを行い児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進した。 【次年度の方針】 ・学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIDリルなどの教育機器を活用して児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「健康や安全に気を付けて生活している」 →児童肯定的回答 85%以上	①業間や昼休みは外に出て遊ぶことを推奨するとともに、各学年の実態に応じた目標を設定するなど、進んで運動する機会の充実と運動への動機付けを図る。また、元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を分析し、体育の授業の中に児童の実態に合った運動を位置付ける。 ②健康の保持増進が図られるよう、毎日、衛生指導や給食指導に取り組むとともに、保健だよりや食育だより等により啓発し、家庭との連携を図る。 ③避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通じた安全教育を推進する。 ④児童の健康安全についての保持・増進を目指し、工夫改善を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.9%であり、目標値を大きく上回り、さらに前年度の児童肯定的回答と比較しても3.7ポイント上回る結果となった。 ①体育科でのサーキット運動に全校体制で取り組ませたり、なかよし班での共遊やクラス遊び等を奨励したりしたことにより、児童が積極的に運動に親しむ姿が見られた。 ②衛生検査を行うことで、児童の衛生に対する意識を高めることができた。さらに、歯科検診の結果やその後の処置の様子をもとに夏休み前の歯みがきカレンダーを個別に配付することで、う歯の予防・治療等の意識が高まった。 ③不審者の侵入・地震、火災を想定した避難訓練を実施し、事後の振り返りを確実にを行い、児童の安全に対する意識を高めることができた。 ④手洗い・うがいの励行などを行い、児童の感染症予防に努めた。二酸化炭素濃度チェッカーを用いて、換気を呼びかけた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を引き続き継続し、児童の安全に対する意識が高まるよう学校全体で共通理解を図りながら指導する。

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート「自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」→児童肯定的回答 80%以上	①学校行事や学級活動などの特別活動において、児童が主体となり自己決定する場を積極的に取り入れる。 ②学習活動等において目標を立て、活動を振り返ることを通して、自分の成長を実感させる	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.4%で、目標値を大きく上回った。 ①縦割り班活動、委員会活動、学級の係活動などの特別活動を通して児童が主体となり自己決定する場を積極的に取り入れた。 ②キャリアパスポートを活用し、学期毎のめあてや目標を立て、振り返ることを通して、自己の成長を実感できるようにした。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を引き続き継続する。さらに、児童が自己の成長を実感できるよう、学校全体で共通理解を図りながら指導する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」→児童肯定的回答 80%以上	①教員が英語を使うとともにALTを活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ②ALTとの交流活動など、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、88.7%で、目標値を上回った。 ①ALTと随時打ち合わせを行い、ALTとのやり取りの中で、身に付けるべきキーセンテンスに慣れ親しませることができた。 ②業間・昼休み、給食や清掃の時間を使い、ALTとコミュニケーションを図る時間を設けることで、児童が外国語を使う機会を増やすことができた。 【次年度の方針】 ・今後も外国語や外国語活動の時間はもとより、休み時間や清掃の時間など、日常的に生きた英語に触れる機会を充実させることにより、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせるとともに、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努める。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「宇都宮の良さを知っている」→児童肯定的回答 80%以上	①生活科や社会科、総合的な学習の時間において、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開する。また、市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう校外学習や体験学習を積極的に取り入れるなどして授業を展開する。 ②地域の情報を収集し、学校だよりやHPに掲載することにより、児童や保護者が地域の良さを実感できるよう努めるとともに、児童や保護者の地域活動への参加を促進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は86.7%で目標値を上回った。 ①各教科等を通して、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開することができ、校外学習も積極的に取り入れた。 ②学校ホームページにおいて、児童の日々の活動や地域と連携した活動等の様子を随時掲載し、児童や保護者に宇都宮市の良さが伝わるよう努めた。 【次年度の方針】 ・市作成教材を活用し、体験活動等も取り入れながら、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう授業を展開するとともに、宇都宮学での取組の様子を継続して発信することにより、保護者にも、宇都宮市の良さが伝わるよう努める。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」→児童肯定的回答 80%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及び1人1台端末、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせの実施や図書だより等による啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに1人1台端末の導入を機に、その特性を各教科等の学習に生かす。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、93.2%で目標値を上回った。 ①1人1台端末の活用は全学年積極的に取り組めた。また、学校図書館司書と連携し、さまざまな教科の資料を希望図書として活用できた。 ②図書便りや図書委員会の活動、イベント等を通し、子供たちの読書意欲を高めるように計画的な啓発を行った。 ③各学年の実態に応じ、日常的に有効活用することができた。また、ICT機器に偏ることなく、図書資料も意図的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。1人1台端末を効果的に活用したり、図書資料を適切に選択して提示したりするなど、各教科等の学習に生かせるようにする。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「『持続可能な社会』について、関心をもっている」 →児童肯定的回答 80%以上	①各教科指導、総合的な学習の時間、学校農園活動や花いっぱい運動など、自然環境の大切さを実感できる教育活動に取り組む。 ②避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなど体験活動を通じた安全教育を推進する。また様々な災害における避難方法等詳細について保護者への周知・連携を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 91.8%で、目標値を大きく上回った。 ①生活科での農園活動や花いっぱい活動など、環境に目を向けた活動を取り入れた。また、総合的な学習の時間において、SDGsの推進に向けて自分たちができることを考え、実践する授業を通し、啓発を行った。 ②各避難訓練や交通安全教室等の体験活動も十分実施した。 【次年度の方針】 ・今後も活動の内容や方法の工夫を継続し、学校内外の環境維持や安全を意識させる活動を実施する。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①校内支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者についての情報共有を図る。 ②校内支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導の充実に努める。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%で、目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個別での支援が必要な児童には、別室で対応するなど、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に努めた。 【次年度の方針】 ・次年度もきめ細やかな指導を行い、一人一人に応じた教育の充実に努める。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 →保護者肯定的回答 80%以上	①いじめに関するアンケートや教育相談、いじめゼロ集会を実施し、普段から安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。 ②道徳科の授業や人権週間の設定、いじめゼロ強調月間による啓発などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。 ③児童の情報交換会を通して、情報を共有し、いじめを生まない全校体制を構築するとともに、教職員自らが人権感覚を高める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 87.5%で、目標値を上回った。 ①いじめに関するアンケートや教育相談、Q-U を実施し、細かな実態把握に基づく具体的な対応や未然防止に努めた。 ②いじめゼロ強調月間におけるいじめゼロ集会の実施や宮っ子心の教育との連携によりいじめを許さない意識が高まった。 ③児童の情報交換会を通して、情報を共有し、いじめを生まない全校体制を構築するとともに、人権教育研修を通して、教職員自らが人権感覚を高めることに努めた。 【次年度の方針】 ○教職員自らが人権感覚を高めるとともに、児童が安心して相談できる関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。また、様々な啓発及び指導などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 →児童肯定的回答 85%以上	①学習指導や特別活動をととして自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさをいかす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。 ③SCM及び不登校対策担当を核として組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.3%で、目標値を大きく上回った。 ①学習指導や特別活動を通して自己肯定感や自己有用感を高める取り組みをし、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校の未然防止に努めた。 ②「きらきらさん表彰」「宮っ子心の教育表彰」や各学級独自の取り組みを活用し、児童のよさや努力等を認め励ます教育を推進した。 ③校内支援委員会などで組織的に支援策を検討し、1人1台端末を活用した連絡や保護者との連携、別室登校支援や外部機関との連携、学生ボランティアの活用などをしながら取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・児童のよさや努力などを認め励ます教育の推進による自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校の未然防止に努める。 ・1人1台端末などの教育機器を活用して保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。

3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。	①体験的な活動を取り入れたり、教育機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ②「あのねカード」を活用し、日頃から児童が相談しやすい雰囲気を作ったり、日々の様子から教師が適切な指導・支援・助言をしたりする。 ③教育相談週間は2週間とし、担任と児童の相談時間を十分に確保する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は97.6%で、目標値を上回った。 ①教育機器やデジタル教科書などを活用したり、積極的に体験的な活動を取り入れたりして、児童が興味・関心をもって取り組むことができる授業の展開に努めた。 ②1人1台端末を活用し、日頃から児童が相談しやすい雰囲気を作るとともに、日々の様子から教師が適切な指導・支援・助言をするよう努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して、教職員がそれぞれの立場で児童理解に努め、一人一人に寄り添った指導・支援・助言を行うとともに、児童のよさや可能性を認め励ます教育を推進する。
3-(4) 多様な教育のニーズへの対応の強化	【数値指標】全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 →児童肯定的回答 90%以上		B
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。	①学力の向上等を目指し、教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問の工夫、学び合い活動の充実等により、分かる授業の展開に努める。 ②児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じて様々な学習方法及び形態の工夫をする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、目標値を大きく上回った。 ①学年ブロックで連携してICT機器を活用したり、よりよい授業が展開できるよう教材研究に努めたりした。 ②児童の実態把握に基づき、教科の特性に応じて少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を取り入れた。また、かがやきルーム指導員と連携しながら個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ・教材研究や授業準備がより効率的・効果的に行えるよう計画・実施するとともに、少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を適宜取り入れ、学力向上を図る。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。	①様々な学校行事のみならず、日頃の教育活動全般において、教職員と関係する学校スタッフが事前の打合せも含めて情報交換を密にし、協働の意識で業務にあたる。	B A
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。	①各種行事や計画の見直ししたり精選したりして、課題と成果を明らかにし、業務改善を促進させるようカリキュラムマネジメントを行う。 ②ミライムやポータルなどをより活用したペーパーレス化や効率化の推進について共通理解を図り、校務全般の一層の効率化に努める。	A
5-(1) 全学的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。	①地域学校園研修においては各部会・教科部会を別々に実施し、教育ビジョンの達成を目指し計画的に推進する。 ②「小中一貫教育だより」や「学校だより」、HP等により、校内の学習や生活の様子について情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は79.7%であり、目標値を下回った。 ①中学校教員による乗り入れ授業を行い、地域学校園の交流活動やあいさつ運動、研修等を行ったりすることができた。 ②関係行事を予定通り実施するとともに、日々の児童の様子や上記の取組等を学校ホームページに随時掲載することにより、情報発信を行うことができた。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育の取組について、趣旨の明確化を図り、地域学校園で協力し合いながらできることを確実に行うとともに、情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。
	【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 →保護者肯定的回答 85%以上		B

5-(2) 主体性と 独自性を 生かした 学校経営 の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	①教育活動や学校運営に係る取組の成果と課題について、校内評価委員会で振り返り、よりよい家庭・地域・企業等との連携・協力について、その在り方を考える。 ②地域協議会や学校支援ボランティアとの連携を図り、その内容について各種便りやHPを活用して紹介し、より一層地域や保護者に連携・協力についての啓発活動を広げていく。	B	【達成状況】 地域の肯定的回答率は昨年度に引き続き 100%で、目標値を大きく上回った。 ①学校支援ボランティアと連携した学習や企業等による出前授業を可能な限り計画的に実践した。 ②岡本小地域協議会を開催し、教育活動の詳細を明確に伝え、教育活動の様子や児童の変容について情報共有・連携・協働を図った。 【次年度の方針】 ・今年度同様、地域協議会との連携・協働による、地域人材や保護者、企業等を活用した特色ある教育活動を推進する。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 →地域肯定的回答 85%以上			
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 →保護者肯定的回答 85%以上	①保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、AED講習の案内など、危機対応に関する情報を適宜提供する。 ②全教職員による毎月の安全点検を行い、児童や利用者が安全に活動できる教育環境づくりに取り組む。	A	【達成状況】 保護者の肯定的回答率割合は91.3%で、目標値を上回った。 ①災害時の児童引渡しに関する送迎ルートを工夫改善し、訓練に取り入れれたり、地震に対する避難訓練を実施したり、保護者に来校時の自家用車の乗入方法や駐車場から校舎への徒歩経路を周知したりするなど、児童の安全確保に努めることができた。 ②安全点検結果に対しては、学校業務嘱託員や機動班等と連携しながら速やかに対処することで、安全な環境づくりに努めることができた。 【次年度の方針】 ・AED講習会については、学校支援ボランティア等にも参加希望を募るなどしながら、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努める。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】全体アンケート 「授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 →教職員肯定的回答 90%以上	①スクールタクト等の教材を校内で共有し、業務の効率化を図る。 ②児童の発達段階に応じて日常的にICTを活用し、評価に生かす。 ③ICT支援員と連携し、児童や教員が1人1台端末をさらに効果的に活用できるよう取り組む。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、95.8%で目標値を上回った。 ① 校内研修を通して ICT の有効な活用の仕方を職員で共有するとともに、学年や特別支援学級、かがやきルームと連携し、業務の効率化を図ることができた。 ② 教職員が日常的にICTを活用することで、評価に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・ICTを意図的に取り入れ、分かる授業の展開に努めるとともに、職員間で教材を共有することにより、業務の効率化を図る。1人1台端末を効果的に活用し、各教科等の評価に生かせるよう努める。
小・中学校、地域学校共通	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「時と場に応じたあいさつをしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①全教育活動を通じて、明るくさわやかなあいさつができるように、全職員で指導を行う。 ②小中一貫教育、学校交流連携促進部会との関連を図りながら、小中学校、地域ぐるみのあいさつ運動を展開する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 91.7%で、目標値を大きく上回った。 ①学級活動や道徳の時間を中心に、あいさつの大切さや適切な態度が習慣化できるよう指導した。 ②児童会活動を中心に、「あいさつ運動」や「かわちあいさつの日」を実施し、学校や学校園で一丸となって取り組みを行いあいさつの定着を促進した。 【次年度の方針】 ○登下校のあいさつのみならず、「ありがとうございます・失礼します・すみません」といった礼儀が身につくよう学校全体で共通理解を図り、時と場に応じたあいさつの定着及び適切な態度が習慣化できるように取り組む。

本校の 特色・ 課題等	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「きまりやマナーを守って、生活をしている」→児童肯定的回答 85%以上	①ルールを守る、いじめをしないなど、人として大切なことを全ての職員が、すべての活動の中でしっかりと指導する。 ②小中一貫教育、学校生活・適応支援部会との連携を図りながら、小中で協力して指導していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.2%で、目標値を上回った。 ①道徳科の時間を要とし、学級活動などで児童のよいところを認めながら、ふれあいとルールを大切にしたい学級づくりに努めた。 ②「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」を各教室に掲示し意識させるとともに、月ごとの児童指導の重点をもとに各学級で取り組んだ。 【次年度の方針】 ・一人一人の児童の特性を適切に把握し、集団と個の両面からアプローチした、ふれあいとルールを大切にしたい学級づくりに努める。 ○「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実とともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。
	B3 児童は家庭学習にしっかりと取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「家庭学習にしっかりと取り組んでいる」→児童肯定的回答 80%以上	①教科の宿題以外に、自主学習ノートを主体的に利用するなど、一日にすこやか学校園で設定された時間は家庭学習に取り組むよう指導する。 ②小中一貫教育、学力向上部会と連携を図りながら、小中で協力して指導していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は91.5%で、目標値を上回った。 ①児童は、地域学校園で設定された目標時間を目指して家庭学習に取り組んだ。 ②地域学校園で共通の「自主学習のすすめ」を配付し、懇談会等で保護者に啓発した。 【次年度の方針】 ・発達段階に応じて設定されている家庭学習の時間をもとに、「自主学習のすすめ」を活用しながら意欲的に取り組めるよう指導・啓発する。
	B4 すべての学習活動を通して、児童の積極性を育てている。 【数値指標】全体アンケート「学習や生活に進んで取り組んでいる」（1～4年）「学習や生活に責任をもって進んで取り組んでいる」（5・6年）→児童肯定的回答 85%以上	①学校全体の活動において、各学年の発達段階に応じて、児童の自己有用感が高められるような活動の充実と改善を図る。 ②児童会活動等の運営に全学年が参画できるよう、代表委員を組織し、高学年がリーダーとして主体的に活動できるよう指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は94.2%で、目標値を上回り、保護者の肯定的回答率も90.8%と前年度からさらに2.3ポイント上回った。 ①各種委員会活動等の提案に対して多くの児童が目的に賛同し、活動の活性化を図ることができた。 ②児童会活動を児童が中心となって企画・運営することで、積極性・協調性が高めることができた。 【次年度の方針】 ・児童の実態に応じて児童会活動等を改善・充実させることにより、学校及び学年、学級の活性化や、高学年のリーダーとしての資質の向上を図る。 ・学校ホームページを通して児童の様子を積極的に発信することはもとより、学校ホームページのQRコードを各種便り等に掲載するなどして、保護者の理解を得られるように努める。
	B5 児童が主体的に活動できる異学年交流活動の実施などにより、児童には自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている。 【数値指標】全体アンケート「児童には、自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている」→教職員肯定的回答 85%以上	①児童が主体的に活動できる異学年交流活動などの学校行事や体験活動等を通し、集団の一員であることの自覚や自尊感情を高めるとともに、コミュニケーション力や思いやりの心を育む。 ②認め励ます指導により、自信や自己有用感を育む。 ③「岡小タイム」を位置づけ、学級の時間や縦割り班活動を実施する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、目標値を大きく上回った。 ①各学年ブロックの高学年が主体となって企画・運営をする「異学年交流会」を実施することができ、児童がそれぞれの立場で活躍する姿が見られた。 ②学校全体で、日頃から児童の小さな努力の積み重ねや、成長などを積極的に認め励ますことにより、自他を大切にしたい言動や、望ましい行動をとることができる児童が増えた。 ③ロング昼休み「岡小タイム」を週に2回位置付け、学級や縦割り班で共遊する時間の確保に努めた。 【次年度の方針】 ・次年度も、異学年交流はもとより、学校行事や体験活動等を通し、集団の中で切磋琢磨する体験や、困難を乗り越える体験を積み重ね、自己有用感や思いやりの心、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいく態度の育成に努める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

25ある全質問項目中の96%にあたる24項目において目標値を上回った。保護者や地域の皆様の温かな御支援のもと、教職員が一丸となり、児童の主体性を育む教育活動を展開するなかで、児童一人一人のよさを認め励ましたり、積極的に1人1台端末を活用しながら学習指導や児童指導にあたったりした結果と捉えている。

一方で、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」については、目標値を下回った。以下に、今後の方向性等について示す。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9）】A1～9の全項目において、目標値を上回った。

・A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における児童の肯定的回答率は、昨年度と比較して目標値80パーセントを大きく11.5ポイント上回った。児童会活動を中心とした日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めたり、「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」を活用したりして、児童のよさや努力を認め励ます教育を推進した結果と捉える。だが一方で、保護者の肯定的回答率は昨年度と比べると、2.3ポイント下回っており、今後も、認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を構築しながら、たくましい心をもつ児童の育成に努める。

・A4「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」における児童の肯定的回答率は目標値85パーセントを大きく上回ったが、保護者の肯定的回答率は、昨年度と比較して6.4ポイント下回った。不審者の侵入や地震・火事を想定した避難訓練を計画的に実施し、訓練後の振り返りを確実に行ったことで、児童の安全に対する意識が高まってきたと捉えるが、この体験活動を通した学校安全教育の取組について、さらに学校ホームページや各種たよりで保護者向けに発信していく必要がある。

・A8「児童はデジタル機器や図書等を学習に活用している。」における児童の肯定的回答率は、目標値80パーセントを13.2ポイント大きく上回り、昨年度の肯定的回答率と比べても3.4ポイント上昇している。1人1台端末の活用は全学年積極的に取り組むことができ、各学年の実態に応じて日常的に有効活用することができた。さらに、ICTや図書資料を意図的に取り入れた、分かりやすい授業の展開に心がけ、各教科等の学習にも生かせるようにする。

【目指す学校の姿（評価項目：A10～20）】全11項目のうち、1項目が目標値を下回った。

・A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。」における教職員の肯定的回答率は、目標値90パーセントを大きく10ポイント上回った。さらに、保護者の肯定的回答率も昨年度より3ポイント上昇している。教材研究や授業準備をより効率的・効果的に行えるよう計画・実施するとともに、少人数指導や習熟度別学習、T・Tによる指導を適宜取り入れ、学力向上に努める。

○A17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」における保護者の肯定的回答率は、目標値85パーセントを5.3ポイント下回った。同じく、高学年児童と教職員のそれぞれの肯定的回答率も、昨年度と比較すると児童7.8ポイント、教職員8.2ポイントで、どちらも下回る結果だった。中学校教員による6年生への乗り入れ授業やあいさつ運動、教職員の研修など実施してきたが、小中一貫教育の取組について趣旨の明確化を図ることで、地域学校園で協力し合いながらできることを確実に実施し、学校ホームページや各種便りで積極的に情報発信することにより、保護者及び地域に対する理解の促進に努める。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～5）】B1～5の項目すべてにおいて目標値を上回った。

・B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」における教職員の肯定的回答率は、目標値80パーセントを11.7ポイント上回った。児童会活動を中心に、「あいさつ運動」や「河内あいさつの日」を実施し、学校や学校園で丸となって取り組んできたが、一方で、地域住民の肯定的回答率は昨年度と比べると5ポイント下回る結果となった。今後も引き続き、学校・家庭・地域・地域学校園が連携し、気持ちのよいあいさつや正しい言葉遣いができる児童の育成を目指し、各教科等における学習活動はもとより、学校行事や児童会活動等を通して、学校全体で共通実践に努める。

・B3「児童は家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」における児童の肯定的回答率は、目標値80パーセントを11.5ポイント上回っているが、保護者の肯定的回答率に注目すると昨年度より4.8ポイント下がっている。地域学校園共通の「自主学習のすすめ」を配付し、懇談会等でもこれまで保護者に啓発してきたが、児童と保護者では温度差があるとみられる。発達段階に応じて設定されている家庭学習の時間をもとに、「自主学習のすすめ」を活用しながら意欲的に取り組めるよう指導・啓発する。

7 学校関係者評価

地域住民による評価結果としては、昨年度の肯定的回答率と比較して、全11項目のうち10項目が同等もしくは上昇という結果をいただくことができた。地域協議会においては、昨年度と比較して、肯定的回答率に5ポイント以上の差が見られた項目を中心に、評価の総括を行った。

特にB1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、児童の肯定的回答割合を見ると前年度よりも4.9ポイント上がっており、子どもたちは挨拶や正しい言葉遣いが出来ていると評価しているようだが、地域住民の肯定的回答割合は前年度より5ポイント下回っていた。これに関して、地域協議会委員から御意見をいただくと、「夕方の散歩の時や近所で会った時など、『こんにちは。』と子どもたちのほうから元気よく挨拶してくれる。」「子どもたちの挨拶から元気をもらっている。」など、よい評価が返ってきた。引き続き、「学校と連携しながら『あいさつ運動』の推進に尽力したい。」といった御意見もいただいた。

今後も「あいさつ運動」や「小中一貫教育・地域学校園」に係る取組、岡本地区の自然、文化、伝統などの教育資源及び地域の教育力を生かした活動などを推進するとともに、それらの取組については、学校ホームページや各種便り等への掲載に加え、地域協議委員のお力をお借りするなどしながら、広く情報発信し、保護者及び地域に対する理解の促進に努める。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体としてよい評価をいただいたが、学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた貴重な意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

- ・高学年児童が企画・運営にあたり全児童が参画する児童会活動や縦割り班での共遊・清掃の実施など、児童の主体性を育む取組として、今後も異学年交流活動を充実させ、これらの活動を通して、認め励ます教育をより一層推進し、児童の積極性や自己有用感、協調性や思いやりの心の育成に努める。

- ・本校において、授業でのICT機器の活用頻度は十分に高く、児童にとっても既に不可欠の学習用具となっており、各学年の実態に応じて、授業のみならず日常的にも有効活用が図られてきた。今後も、教職員は効果的な活用方法を目指して実践を積み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めながら、児童の学力向上に役立てていく。

- ・児童の体験学習の充実を図るため、校外学習や企業・団体等の講師を招いた出前授業・オンライン授業など、各教科の学習内容に基づいた計画的な実施に努めていく。子どもたちが地域や社会とのつながりを通して教養を深め人間性を養うことができるよう、地域の人的・物的資源の活用に取り組むとともに、学校ホームページや各種便り等に掲載することで、児童や保護者が地域のよさを実感できるよう努める。

- ・「いじめの未然防止」や「いじめに対する指導」については、今後も全教職員で取り組む。どんな形であっても、いじめは許されない行為であることはもとより、一人一人の人権を尊重にすることの大切さ等を、日々の学級活動や道徳の授業、いじめゼロ強調月間、人権週間等においても丁寧に指導し、すべての児童が安全に、楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努める。また、スマホ・携帯・SNS等のネットトラブルを未然に防ぐため、高学年向けの教室や親子出前講座の実施にも努める。

○河内地域学校園においては、小中合同あいさつ運動や中学2年生の社会体験学習（宮っ子チャレンジ）、中学校教員による6年生への乗り入れ授業、教員相互の研修等実施など、小中間の交流活動をこれまで同様に行い、それらの取組を学校ホームページや各種便り等で積極的に情報発信することにより、保護者及び地域に対する「小中一貫教育・地域学校園」の取組への理解促進に努める。

- ・岡本地域協議会を要として、地域協議委員や学校支援ボランティア等の御支援・御協力による教育活動の充実に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。